

Windows

カスタム ライブラリ

パーツデータによる手動インストール手順

(1. 6. 5. 6 版)

－ 目次 －

1.	概 要	1
1.1.	対応する Windows/VisualStudio のバージョン	1
2.	インストールデータ	エラー! ブックマークが定義されていません。
3.	パーツデータによる手動インストール操作	2
3.1.	手動インストール手順	2
3.2.	手動アンインストール手順	2
3.3.	インストール情報のクリーンアップ	3
4.	環境変数について	4
5.	C/C++ 開発環境の設定	5
5.1.	インクルードパスの設定	5
5.2.	リンカのライブラリパスの設定	6
5.3.	DLL の配置	6
6.	C# (.NET- Framework) 開発環境の設定	7
6.1.	ツールボックスアイテムの登録	7
6.2.	.NET Framework 用クラスライブラリの配置	8
7.	サンプルプログラム	9
8.	再配布	10
9.	免責事項	10
10.	問い合わせ先	10

1. 概要

Windows カスタムライブラリは、VisualStudioによる、C/C++/C#プログラミング用のライブラリです。

このライブラリの詳細な内容については、次の文書ファイルを参照してください。

- AjrCst32.pdf (Windows カスタムライブラリ説明書 C/C++ 用レギュラーDLL編)
- AjrMsil.pdf (Windows カスタムライブラリ説明書 C#用 .NET-Framework クラスライブラリ編)
- AjrCppClass.pdf (Windows カスタムライブラリ説明書 C++ クラスライブラリ編)

Windows カスタムライブラリの手動インストール、開発環境の設定方法について説明します。

手動インストールにより、32bit-Windows へのインストールも可能です。

1.1. 対応する Windows/VisualStudio のバージョン

このライブラリは、PC 版の Windows10 / Windows11 (64 ビット版 Windows と 32 ビット版 Windows) で動作可能です。

2. Zip ファイルの解凍

「WinCustLib.zip」を解凍すると以下のデータが作成されます。

インストールデータ

フォルダ				ファイル	内容
WinCustLib¥Rel				AjrCstInstall.pdf	インストール手順（本書）
				AjrCstParts.pdf	パーツデータによる手動インストール手順（本書）
				AjrCstBuildPack.pdf	ビルドパッケージの説明
Data				SampleProgram.zip	サンプルプログラム（※1）
				PartsData.zip	パーツデータ
				BuildPack.zip	ソースプログラム(VisualStudio プロジェクト)
Doc				AjrCst32.pdf	C/C++用ライブラリ説明書
				AjrMsil.pdf	C#(.NET Framework)用ライブラリ説明書
				AjrCppClass.pdf	C++クラスライブラリ説明書
Install	Win64	WinCustLibE	setup.exe WinCustLibE.msi	インストールデータ （日本語以外の Windows 用）	
		WinCustLibJ	setup.exe WinCustLibJ.msi	インストールデータ （日本語 Windows 用）	

※1 : C#/VB.NET 用のサンプルプログラムを実行する場合は、「手動インストール」を行っておいてください。

本書では、上記解凍データ (PartsData.zip) を使用した手動インストールについて説明します。

3. パーツデータによる手動インストール操作

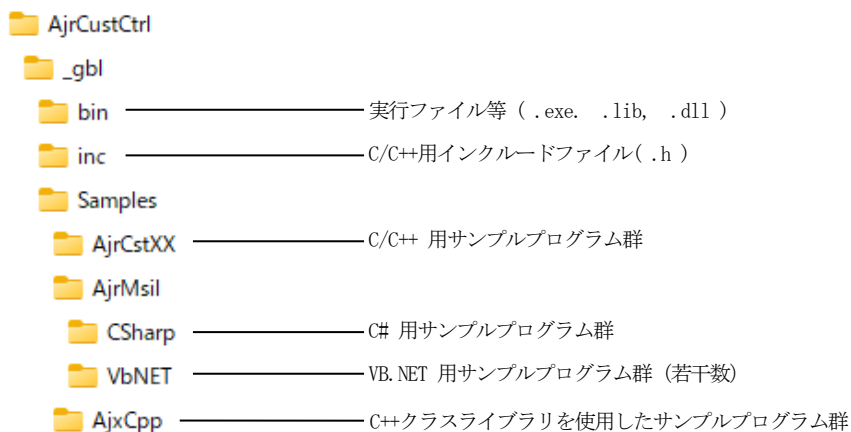
パーツデータ(PartsData.zip) を使用した手動インストールについて説明します。

3.1. 手動インストール手順

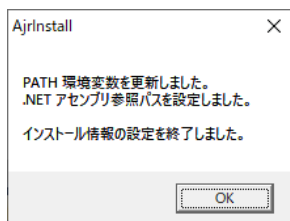
以下の手順で手動インストール操作を行います。

(手動インストールでは、システムにインストール情報は記録されませんので、アンインストールも手動で行う必要があります)

- 1) すでに以前のバージョンがインストールされている場合は、アンインストールしておいてください。
アンインストールの手順は「3.2 手動アンインストール手順」を参照してください。
- 2) PartsData.zip をいずれかのフォルダにコピーし、解凍します。
解凍すると以下のデータが生成されます。



- 3) bin¥AjrInstall64.exe (32BitWindows の場合は AjrInstall32.exe)を実行しライブラリの初期化を行います。
bin¥AjrInstall64.exe /AjrInstall32.exe は、管理者権限で実行されます。
- 4) ライブラリの初期化が成功すると、以下のメッセージが表示されます。

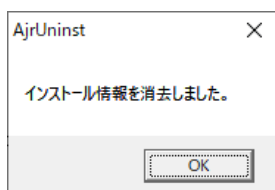


3.2. 手動アンインストール手順

以下の手順でアンインストール操作を行います。

(手動インストールした場合は、システムにインストール情報は記録されませんので、システムのスタートメニュー (アプリ) からのアンインストール操作はできません。)

- 1) bin¥AjrUninst64.exe (32BitWindows の場合は AjrUninst32.exe)を実行しライブラリの初期化情報を削除します。
bin¥AjrUninst64.exe / AjrUninst32.exe は、管理者権限で実行されます。
- 2) ライブラリの初期化情報の削除が成功すると、以下のメッセージが表示されます。



3.3. インストール情報のクリーンアップ

インストーラによるインストール、手動インストールや手動で環境変数の設定を行った場合等でインストール情報が散在する場合、以下のプログラムにより散在するインストール情報を一括してクリーンアップすることができます。

- AjrUCleanup32.exe (32Bit PC 用)
- AjrUCleanup64.exe (64Bit PC 用)

実行イメージ

説明文表示

旧ライブラリ (カスタムコントロールと汎用API) のインストール情報も含めます。

全てのインストール情報を検索し、上のリストボックスに表示します。

プログラムを終了する

リストボックス内の選択された項目をクリーンアップします。
クリーンアップしない項目は、選択状態 (青色反転表示) を解除しておきます。

※インストール情報のクリーンアップを行った場合でも、ライブラリのファイル群は残ります。

インストール情報のクリーンアップは、参照パスのクリーンアップだけを行います。

※インストーラによりインストールした場合、システムからインストール情報を削除するには、アンインストール操作を行う必要があります。

※「環境変数 (CL, LINK)」は、単に、CL 環境変数と LINK 環境変数をピックアップします。

「クリーンアップ」ボタンで、ピックアップした CL 環境変数、LINK 環境変数を消去します。

※「環境変数 (PATH)」は、当該パスに「AjrCst32.dll」or「AjrCst64.dll」(「旧ライブラリも含める」をチェックした場合は、「AjrCst132.dll」or「AjrCst164.dll」も含む)が存在し、かつ、「AjrVersion32.exe」or「AjrVersion64.exe」が存在するパスをピックアップします。

「クリーンアップ」ボタンで、PATH 環境変数からピックアップしたパスだけを消去します。

※「.NET Framework アセンブリ参照」は、アセンブリ参照名「CAjrCustCtrl」(「旧ライブラリも含める」をチェックした場合は「AjaraControl」も含む)をピックアップします。

「クリーンアップ」ボタンで、ピックアップしたアセンブリ参照が消去されます。

4. 環境変数について

手動インストールを行うと、以下の項目がシステム環境変数に追加設定されます。

環境変数名	追加される内容（～はPartsData.zipを解凍したフォルダパス）	備考
CL	/I"～_gbl¥inc"	手動インストールでは設定されません。 設定するにはAjrSetEnv32/64.exeを実行します
LINK	/LIBPATH:"～_gbl¥bin¥"	
PATH	～_gbl¥bin¥	

「CL」環境変数は、C/C++コンパイル時のインクルードファイルのパスを指定します。

「CL」環境変数の設定により、ソースに「#include <AjrCstXX.h>」を記述するだけでC/C++プログラムのコンパイルができます。

「LINK」環境変数は、.lib ファイルの位置を指定します。

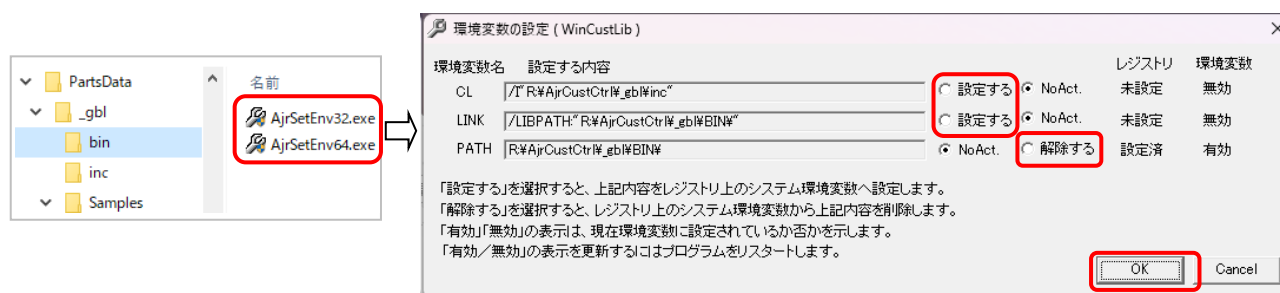
「LINK」環境変数の設定により、.lib ファイルのパスや名称を指定しなくてもリンケージ（C/C++プログラムのビルド）が可能となります。

「PATH」環境変数は、ライブラリの実行ファイル（.dll）のパスを指定します。

「PATH」環境変数の設定により、本ライブラリが自動的にロードされて実行することができます。

この環境変数は、bin¥AjrSetEnv64.exe（32bit Windows の場合は bin¥AjrSetEnv32.exe）により無効化／有効化できます。

bin¥AjrSetEnv64.exe / bin¥AjrSetEnv32.exe は管理者権限で実行されます。



「解除する」をチェックすると、当該環境変数の設定が解除されます。この場合、次回起動時に当該項目の「NoAct.」は「設定する」に変わります。

「設定する」をチェックすると、当該環境変数が設定されます。この場合、次回起動時に当該項目の「設定する」は「NoAct.」に変わります。

<注> C#やVB.NET(.NET-Framework)で本ライブラリを使用する場合は、PATH 環境変数を解除しないでください。

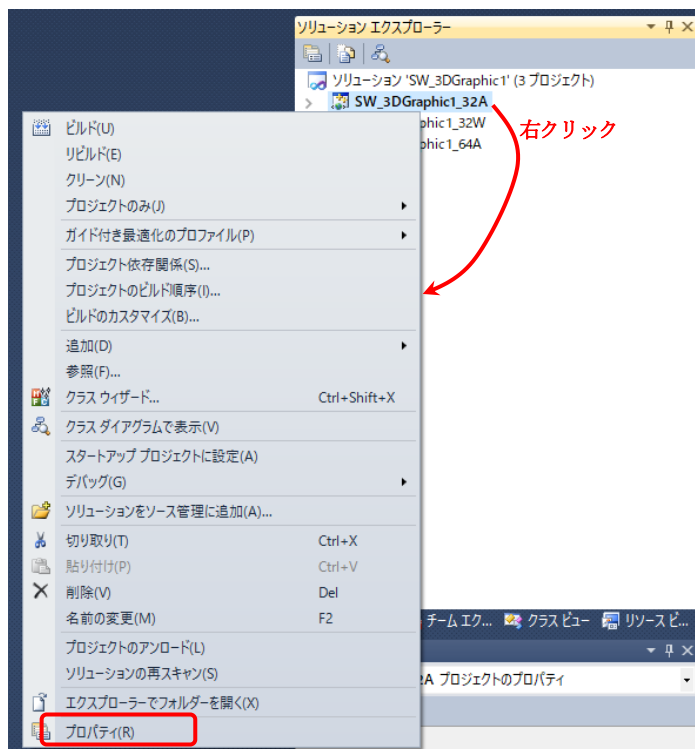
5. C/C++ 開発環境の設定

インストール後は、(環境変数が設定されている為) 特に開発環境を設定する必要はありませんが、作成したプログラムを配布する際において、配布したプロジェクトをビルドできるようにする、あるいは、配布したプログラムを実行できるようにする目的で、VisualStudio の設定を行う必要が生じる場合があります。

ここでは、C/C++を使用する際の VisualStudio の設定方法と DLL の配置について説明します。

5.1. インクルードパスの設定

「ソリューションエクスプローラ」から、当該プロジェクトを右クリックし、「プロパティ」を選択します。



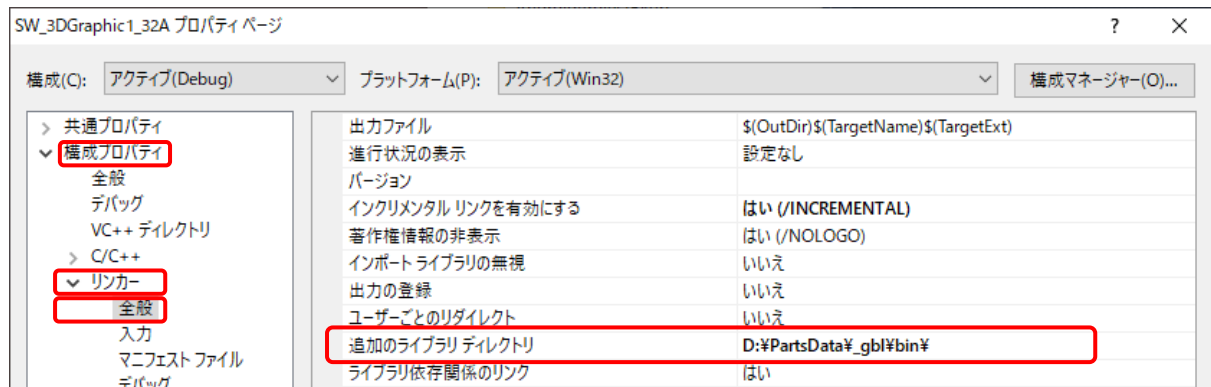
プロパティページで、「構成プロパティ」→「C/C++」→「全般」の「追加のインクルードディレクトリ」へインクルードファイルが格納されているフォルダへのパスを設定します。(プロジェクトフォルダからの相対パスでも可)



5.2. リンカのライブラリパスの設定

プロパティページで、「構成プロパティ」→「リンカ」→「全般」の「追加のライブラリディレクトリ」へ

AjrCst32.lib /AjrCst64.lib が格納されているフォルダへのパスを設定します。(プロジェクトフォルダからの相対パスでも可)



5.3. DLL の配置

本ライブラリを使用したアプリケーションプログラムを配布する場合、配布先で本ライブラリをインストールするか、あるいは、実行プログラムファイル (.exe) と同じフォルダに DLL ファイルを同梱する必要があります。

作成したプログラムを配布する際に、配布先で本ライブラリをインストールしない場合は、実行プログラムファイル (.exe) と同じフォルダに、以下の DLL ファイルを置いて下さい。(・・・*_gbl*bin からコピーします)

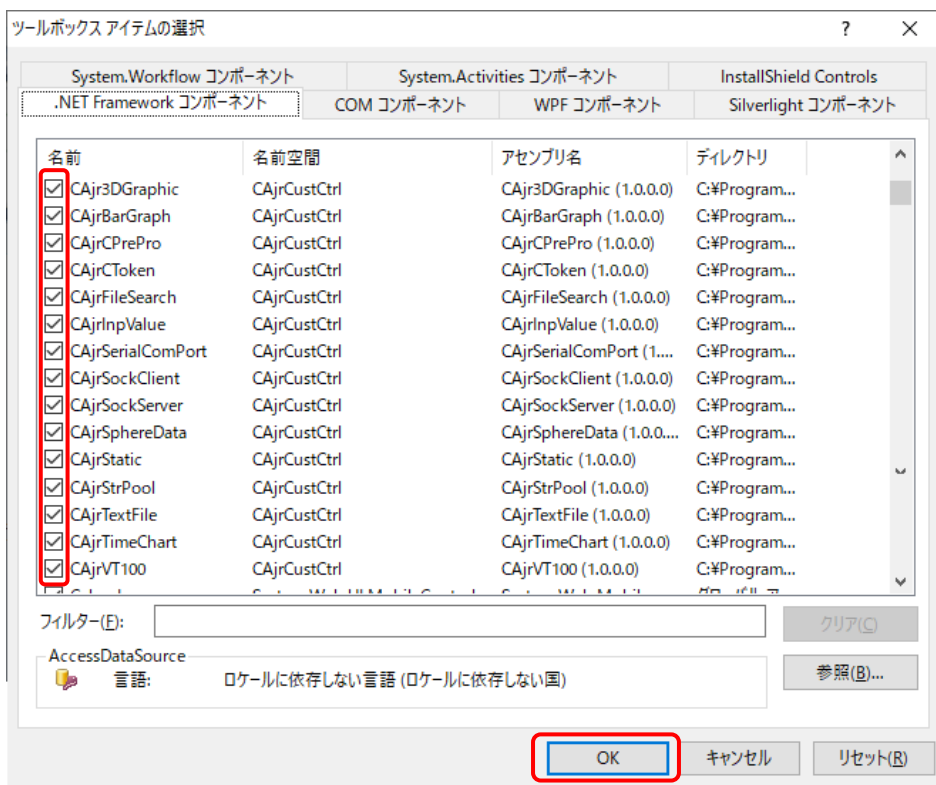
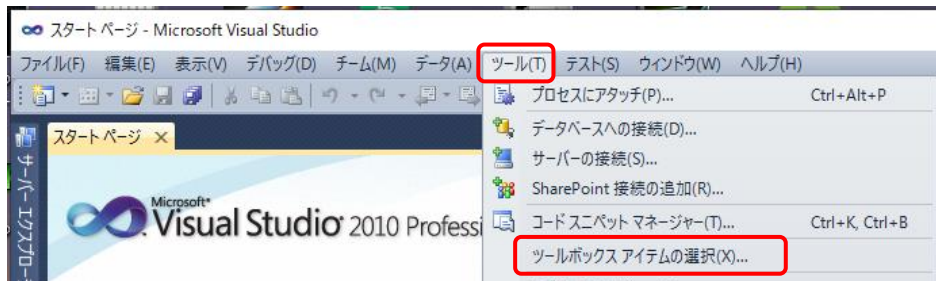
- AjrCst32.dll
- AjrCst64.dll (32Bit-Windows の場合は不要)
- AjrCpp32.dll
- AjrCpp64.dll (32Bit-Windows の場合は不要)

6. C# (.NET- Framework) 開発環境の設定

ここでは、C# (.NET Framework) を使用する際の VisualStudio の設定方法とクラスライブラリの配置について説明します。

6.1. ツールボックスアイテムの登録

本ライブラリをインストール後、VisualStudio を起動し、「ツール」→「ツールボックスアイテムの選択」で「CAjr」で始まる以下の項目をチェックします。



※「OK」ボタンを押した際に、右のようなメッセージが表示される場合があります。気にせずに「OK」ボタンを押してください。



6.2. .NET Framework 用クラスライブラリの配置

本ライブラリを使用したアプリケーションプログラムを配布する場合、配布先で本ライブラリをインストールするか、あるいは、実行プログラムファイル（.exe）と同じフォルダにDLL ファイルを同梱する必要があります。

作成したプログラムを配布する際に、配布先で本ライブラリをインストールしない場合は、実行プログラムファイル（.exe）と同じフォルダに、以下のDLL ファイルを置いて下さい。（・・・¥_gbl¥bin からコピーします）

- AjrCst32.dll
- AjrCst64.dll （32Bit-Windows の場合は不要）
- CAjr3DGraphic.dll
- CAjrBarGraph.dll
- CAjrCPrePro.dll
- CAjrCToken.dll
- CAjrCustCtrl.dll
- CAjrFileSearch.dll
- CAjrInit.dll
- CAjrInpValue.dll
- CAjrSerialComPort.dll
- CAjrSockClient.dll
- CAjrSockServer.dll
- CAjrSphereData.dll
- CAjrStatic.dll
- CAjrStrPool.dll
- CAjrTextFile.dll
- CAjrTimeChart.dll
- CAjrVT100.dll

「CAjr」で始まるDLL ファイルは使用する機能によっては不要なファイルもありますが、全部配置しておいた方が無難です。

7. サンプルプログラム

サンプルプログラムは、(・・・¥_gbl¥Samples) に格納されています

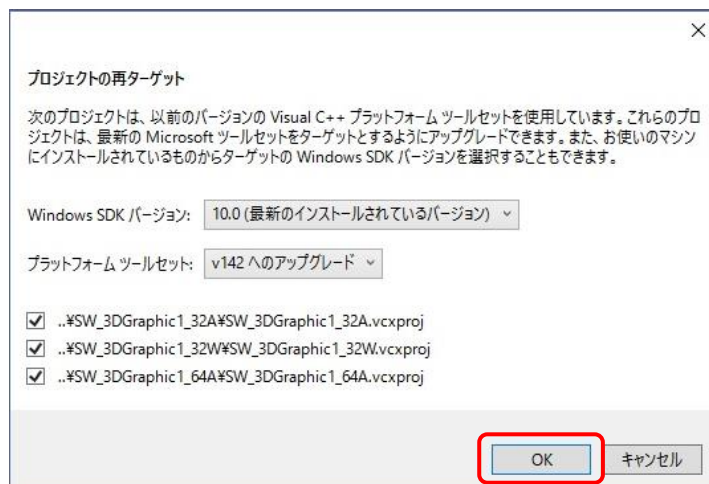
- ▼ SampleProgram
 - ▼ _gbl
 - bin ————— 実行プログラム (.exe .dll .lib) 等
 - inc ————— C/C++用インクルードファイル
 - ▼ Samples
 - > AjrCstXX ————— C/C++ 用サンプルプログラム群 (※1)
 - ▼ AjrMsil
 - > CSharp ————— C# 用サンプルプログラム群
 - > VbNET ————— VB.NET 用サンプルプログラム群 (若干数)
 - > AjxCpp ————— C++用クラスライブラリを使用したサンプルプログラム群 (※1)

※1 : C/C++用の各サンプルプログラムは、(一部を除いて) 以下のフォルダ構成となっています。

```
AjrCstXX/AjxCpp
+-- SW/SP_<サンプル名 1> ————— ソリューションファイル(SW/SP_<サンプル名 1>.sln)
|   +-- Src ————— ソースプログラム
|   +-- SW/SP_<サンプル名 1>_32A — 32Bit (x86)ASCII   プロジェクト
|   +-- SW/SP_<サンプル名 1>_32W — 32Bit (x86)UNICODE プロジェクト
|   +-- SW/SP_<サンプル名 1>_64A — 64Bit (x64)ASCII   プロジェクト
+-- SW/SP_<サンプル名 2> ————— ソリューションファイル(SW/SP_<サンプル名 2>.sln)
.
.
.
```

各サンプルプログラムは、「VisualStudio 2010」で作成しています。

「VisualStudio 2011」以降で使用する際は、以下のようなアップグレードの確認メッセージが表示されます。



上記メッセージが表示されたら「OK」ボタンを押して、アップグレードを実行してください。

8. 再配布

本ライブラリ（DLL ファイル）は、再配布に関する制限を設けていませんので、自由に配布することができます。

9. 免責事項

本ソフトウェアは、一通りの動作チェックを行っていますが、動作を完全に保障するものではありません。
本ソフトウェアを使用したアプリケーションの運用結果については、一切の責任を負いかねますのでご了承ください。

10. 問い合わせ先

本ソフトウェアに関するお問い合わせは、件名の先頭を「Ajara:」として、以下のメールアドレスに送付してください。

<code>xxxajarakojara@kk.email.ne.jpxxx</code>

[注] 先頭と末尾の「xxx」は削除してください。
「@」は、全角となっていますので、半角に訂正してください。

メールアドレスは変更される場合がありますので、以下の URL で確認してください。

<http://www.ne.jp/asahi/ajara/kojara/>